

幸せを感じる町を目指し 安全・安心のまちづくり

平成 24 年第 1 回町議会定例会が、2 月 27 日から 3 月 19 日までの 22 日間にわたり行われ、初日に川村光朗町長が町政運営の所信を述べました。ここでは、町長の平成 24 年度施政方針（要旨）と予算の概要についてお知らせします。

私は、町長就任以来、「創造、決断、実行」を基本理念とし、町民誰もが安全・安心で幸せを感じることができ、町の実現を目指し、対話の中から町民の皆さまが何を求めているかを見出しつつ、「意見を尊重しながら町勢発展のため最大限の努力を傾注し、誠心誠意取り組んでまいりました。

昨年 3 月 11 日の東日本大震災津波による未曾有の大災害によって被災され、お亡くなりになられました方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、行方不明となられている方々の一日も早い発見をお祈りするところであります。また、不自由な暮らしを余儀なくされている被災者の方々に、改めてお見舞い申し上げます。沿岸被災地の早期復興を願うとともに、今後でもできる限りの支援をしてまいりたいと考えております。

町内の情勢を見ますと、矢巾中学校

移転改築事業は、昨年 11 月に校舎および屋内運動場が完成し、本年 1 月から新校舎で授業を開始しており、新しい歴史が刻まれました。また、矢幅駅前地区土地区画整理事業は、昨年 10 月から本格的に工事が着手され、順調に推進しております。さらに、岩手医科大学の総合移転事業は、附属病院移転用地の造成工事、ドクターヘリ基地ヘリポート工事が行われ、引き続き、医療関連施設が順次、計画的に整備されることとなっており、附属病院の早期完成を期待しております。

第 6 次矢巾町総合計画後期基本計画の 2 年目である平成 24 年度は、厳しい状況下ではあるものの、あらゆる手法により歳入の確保に努め、事業効果や効率性を検証しつつ、歳出の徹底した見直しを行い、「選択と集中」を図ることにより、政策的な事業に要する経費を厳選して計上するなど、財政規

律を堅持しながら着実に執行してまいります。平成 24 年度当初予算の概要について、第 6 次矢巾町総合計画の施策の大綱であります 5 つの基本施策に沿って、主要な事業に關し具体的な取り組みや課題について、ご説明申し上げます。（左ページを参照）

平成 23 年度の実施計画における課題や達成状況などを検証し、向こう 4 年間の計画達成に向けての影響、効果、今後の方向性などの検討を行うとともに、後期基本計画に掲げた事業をさらに精査しながら、確実に実行するよう鋭意取り組んでまいります。

普通会計の中期的な財政見直しは、歳入面においては、依然として景気後退の影響が続き、当面は自主財源である税収入の伸びが期待できない状況であり、依存財源である地方交付税は増額されたものの、財源保障機能の根

幹を揺るがず状態が継続しており、先行きが不透明な状況に変わりはありません。歳出面においては、第 6 次矢巾町総合計画後期基本計画の最重要事業である矢幅駅前地区土地区画整理事業をはじめ、計画された事業に限られた財源を効率よく配分して取り組む必要があります。後期基本計画に計上した事業の財源は、町税や普通交付税のほか、財政調整基金の取崩しを予定しており、計画されている事業の繰り延べや規模見直しなど、一層慎重な財政運営に努めていかなければなりません。

しかしながら、矢幅駅前地区の再開発は 30 年来の懸案事業であり、矢幅駅から岩手医科大学矢巾キャンパス、附属病院、そして徳田橋へと新しい人の流れと賑わいを創出する、将来の矢巾町を展望する事業となることから、必ず成功させなければならぬと強い

平成 24 年度 施政方針の主な施策

①自然、都市と農村が調和するまちづくり

■土地利用計画…新たに市街化区域に編入される藤沢地区と中村地区について、早期の市街化形成に向けて関係機関や開発者との調整を図ります。

■農業基盤の整備…徳田第二地区と下矢次地区について、本換地に向けて事業を推進します。また、農地・水・環境保全向上対策に取り組む組織を、引き続き支援します。

■都市基盤の整備…矢幅駅前地区土地区画整理事業について、中心市街地の核となる地域として、また、岩手医科大学附属病院の移転による岩手県の医療拠点を支える町として、新しい魅力あるまちづくりのため、最重要事業として取り組みます。

■幹線道路網の整備…岩手医科大学附属病院の移転計画などと整合性を図りながら、アクセス道路の整備に向けて、徳田橋架け替えの早期完成や、「(仮称) 矢巾スマートインターチェンジ」設置の早期事業化について、関係機関との連携のもと要望活動を行います。

②地域に根ざした活力ある産業のまちづくり

■農業の振興…「農業担い手支援事業」や「やはば集落営農応援事業」などを実施し、担い手である集落営農組織の強化や認定農業者の所得向上を目指します。また、人材育成や農工商連携の促進による 6 次産業化の推進に向けた取り組みを支援します。

■商工業の振興…商工会や商業団体と連携し、地域の魅力を発信する賑わい創出イベントなどを支援するほか、新たに矢幅駅前地区商業集積形成事業を立ち上げ、活力ある商店街の形成に取り組めます。

■観光の振興…いわてデスティネーションキャンペーンにおいて、造営千二百年を迎える国指定史跡「徳丹城」を全国に発信し、町内観光の活性化を図ります。

③安全で快適なやすらぎのあるまちづくり

■生活道路の整備…より地域に身近な町道の整備は、地域への資材支給等を行い、行政と地域が協働で行う「協働の道づくり事業」を推進し、新しい道路整備のあり方や取り組み手法について検討しながら取り組みます。

■環境保全…昨年に引き続き、住宅用太陽光発電システム設置に対して補助金を交付します。また、再生可能工

ネルギーの導入の推進を図ります。

■ごみ減量化…町指定専用袋の使用と「その他プラスチック・その他紙製容器」の分別回収に、引き続き全町を上げて取り組み、ごみの減量と環境にやさしい社会の実現を目指します。

■災害に強いまちの形成…昨年の東日本大震災を踏まえ、より一層の安全安心のまちづくりを目指し、防災体制の強化と充実を図ります。共助組織としての自主防災組織をすべての地域で結成し、「自助」「共助」を基本に「公助」がサポートにあたる、地域ぐるみの防災体制と防災意識の高揚を図ります。

④安心で生きがいのある健康長寿のまちづくり

■少子化対策・児童育成支援…北高田保育園の改築事業や、矢巾中央幼稚園が整備を計画する幼保連携型の「仮称矢巾認定子ども園」の設置を支援します。

■健康づくり…がん検診について、従来の地区公民館型の集団検診に併せ、医療機関に委託する個別検診、長期間実施できる通年型検診など、がん検診を受けやすい体制の構築に努めます。特定健康診査と特定保健指導は、国保ヘルスアップ事業と連動させながら、岩手医科大学や医師会などの専門機関や自治会と協働型の実施体制を確立し、地域一丸となって受診率の向上に力を入れて取り組みます。今後も、町民の公衆衛生の向上と健康増進を図り、行政と町民が連携しながら、保健・医療・福祉が充実した「日本一健康な町やはば」を目指します。

⑤たくましく豊かな心を育てるまちづくり

■矢巾中学校の移転改築事業…屋外運動場とプール、外構工事は、平成 24 年 6 月に完了する見込みであり、着実に事業に取り組めます。

■徳丹城造営千二百年記念事業…国指定の史跡徳丹城跡は、本年が造営千二百年の節目の年であり、年間を通じた記念事業を展開し、広く全国に情報発信していきます。

■2016 年岩手国体…平成 28 年に岩手県で開催される国民体育大会について、平成 24 年度から教育委員会事務局内に国体準備室を設置し、デモンストレーションスポーツであるスポーツチャンバラとラジオ体操の開催、また盛岡市と奥州市で開催されるカヌー競技の運営について、着実に取り組みます。

決意を持って取り組んでまいります。このように大きな事業は、財政を圧迫することも想定しておりますが、本町においては財政の健全化を第一に考え、町民の皆さまに不安や不信感を与えないよう健全経営に努めてまいります。財政健全化の指標である「実質公債費比率」は、平成 22 年度決算では 16・3 割と前年を 1・7 ポイント下回り、引き続き事業の見直しや効率的な町債の活用に取り組んでまいります。

平成 24 年度の一般会計予算規模は、矢巾中学校移転改築事業が完了することから、対前年度比約 11 億 7 千万円の減で、92 億 5 千万円となります。が、緊急性、重要性および費用対効果などを勘案したうえで、財政健全化の観点から必要最少限の予算を配分し、創意と工夫で支障が生じないように事業を執行するとともに、なお一層の経費削減に努めてまいります。また、公債費負担対策として、下水道事業において、延長された補償金免除繰上償還を活用し、将来の負担軽減に取り組んでまいります。

今後も町民憲章に掲げる「和といたわりと希望の町」の実現を目標として、安全・安心の町を目指し、思いやりの心を重視し、引き続き「スピードアンドチャレンジ」をキャッチフレーズに、創意と工夫を凝らして、業務執行に取り組んでまいります。私は、町民が幸せを感じることを願う行政運営を行うため、全力を傾注し町政を遂行してまいります。

予算

92億4,580万円

限られた財源を有効に活用

予算は、4月1日から翌年の3月31日までの一年間に、町がどんな事業にどれくらい経費をかけて行くかを示すもので、一般会計と特別会計、企業会計の3つからなっています。

■一般会計予算

平成24年度の一般会計当初予算は、92億4580万円となりました。新矢中学校の校舎と体育館の建設完了により教育費が大幅に減少し、前年度に比べて総額約12億円の減額となっています。町に入るお金(歳入)については、自主財源である町税は、国の税制改正による個人住民税の伸びなどが期待され、約1千万円増額の見込みです。国庫支出金や町債などの依存財源は、矢中学校建設の完了などから前年比約8億7千万円の減額となりました。全体

主な事業の内容

<単位：万円(千円を四捨五入)>

- #### ■ 総務費 ■
- ▶職員研修事業..... 250
 - ▶行政区管理運営事業..... 1,247
 - ▶人材育成事業(国際交流)..... 300
 - ▶交通安全対策事業..... 913
 - ▶防犯対策事業..... 196
 - ▶コミュニティ推進事業..... 809

■ 土木費 ■

- ▶道路維持事業..... 1億2,353
- ▶除雪事業..... 1,941
- ▶町道の新設改良事業..... 1億1,599
- ▶橋梁維持事業..... 5,270
- ▶駅東西自由通路等維持管理事業..... 1,873
- ▶都市公園の維持補修事業..... 358
- ▶住宅の耐震改修支援事業..... 550

■ 衛生費 ■

- ▶成人検診事業..... 4,621
- ▶母子保健事業..... 3,541
- ▶予防接種事業..... 7,240
- ▶感染症総合対策事業..... 286
- ▶浄化槽設置整備事業..... 736
- ▶ごみ処理場運営事業..... 3億9,945

■ 農林水産業費 ■

- ▶農業経営構造対策事業..... 199
- ▶農作物流通消費拡大事業..... 272
- ▶農業生産振興対策事業..... 1,494
- ▶農地等整備事業..... 1,721
- ▶かんがい整備事業..... 3,195
- ▶林業振興対策事業..... 352

■ 消防費 ■

- ▶非常備消防事業(消防団など)..... 2,921
- ▶消防施設整備事業..... 2,564
- ▶消防自動車更新事業..... 1,849

■ 商工費 ■

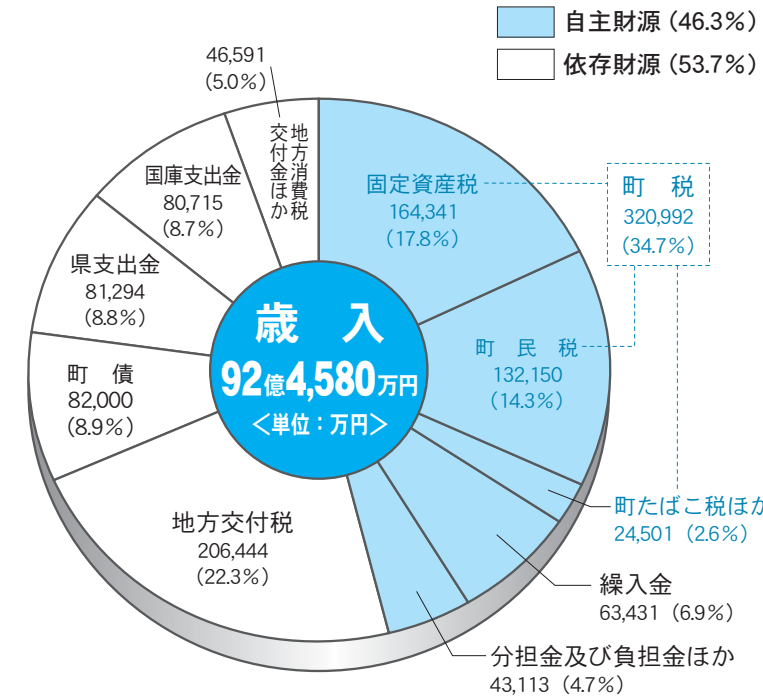
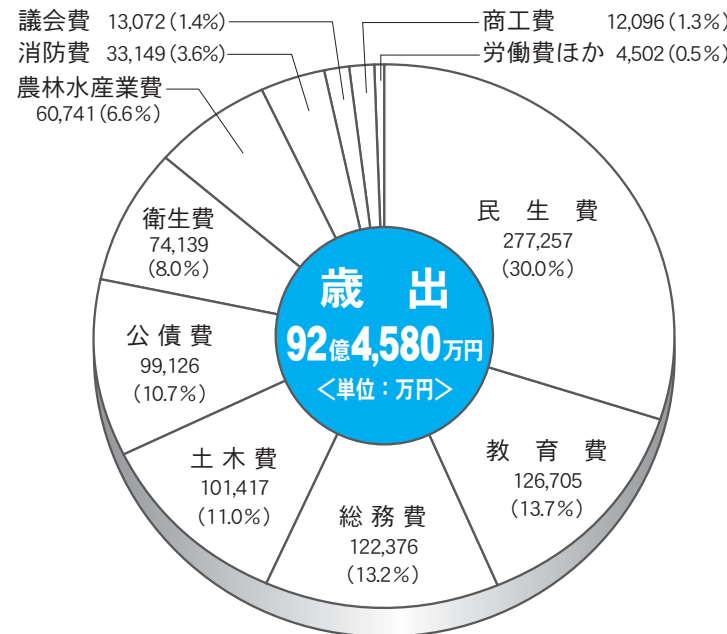
- ▶商工業振興事業..... 1,684
- ▶中小企業振興資金貸付事業..... 679
- ▶自然公園整備事業..... 1,933

■ 労働費 ■

- ▶就労者支援事業..... 131
- ▶融資貸付制度事業..... 2,300

■特別会計・企業会計予算

特別会計は、国民健康保険事業など6特別会計で、総額71億5168万円となりました。矢幅駅前地区の区画整理が平成23年度から本格化し、矢幅駅周辺土地区画整理事業特別会計は、前年と比べて32%増額の約17億8千万円となっています。また、企業会計である水道事業会計は、総額で約9億円となっています。

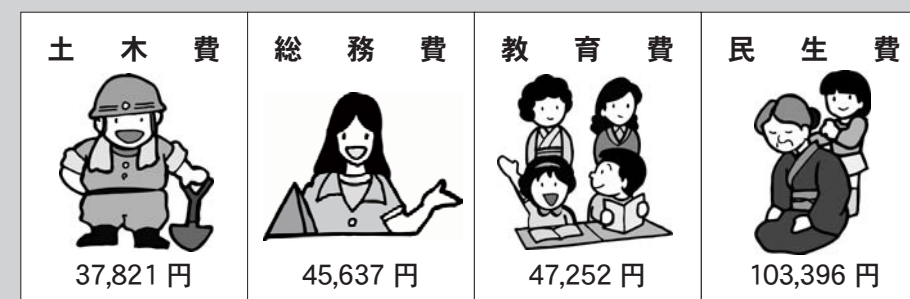
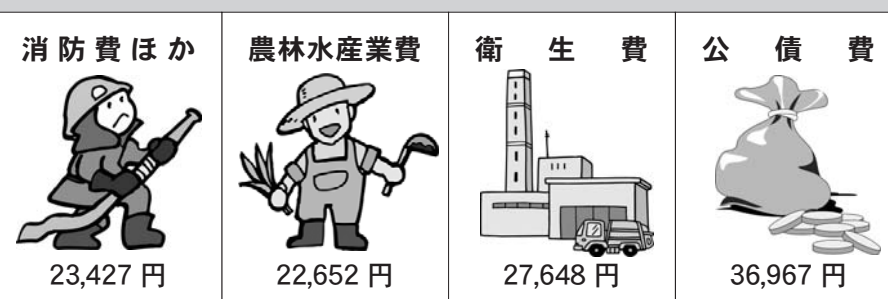


平成 24 年度特別会計・企業会計の予算 単位：万円 (千円を四捨五入)

会計名	予算額	会計名	予算額
国民健康保険事業	231,905	農業集落排水事業	32,087
介護保険事業	159,626	矢幅駅周辺土地区画整理事業	177,666
後期高齢者医療	14,313	水道事業	55,572
下水道事業	99,571	資本的支出	34,226

*** 財 政 用 語 解 説 ***

■地方交付税＝町の財政力に応じて国から配分されるお金 ■町債＝大きな事業を行うときに借るお金 ■国庫・県支出金＝事業に対し国や県から交付される補助金など ■繰入金＝積立てした基金を取り崩したお金 ■総務費＝一般的な事務経費や財産管理、統計調査費、広報経費など ■民生費＝老人や障がい者、児童などの社会福祉のための経費 ■公債費＝事業を行うために借ったお金の返済金 ■自主財源＝町税や繰入金など町が独自に調達できるお金 ■依存財源＝国や県から交付されるお金や割り当てられる収入



一般会計予算を町民一人当たりで見ると・・・
344,800円
平成 24 年 3 月 1 日
現在の人口 26,815 人